

「社会と情報」の授業イメージを考える

聖母被昇天学院中学校高等学校

情報科社会科教諭 岡本弘之

okamoto@assumption.ed.jp

1. はじめに

「4月からの新しい『社会と情報』の授業をどうしよう！」と考えている先生方多いのではないのでしょうか？私も実はそうです。

今日これからお話しすることは、今まで行ってきた授業実践と絡めてお話していきますが、一部、「こんなふうになりたい」という理想も含めてのお話とご理解ください。

2. こんな授業をやっています

～「情報社会と問題解決」の授業実践の紹介～

最初に今回の学習指導要領の改訂で情報科に入った「問題解決」について、勤務校での授業実践を紹介します。

(1) 実践の概要

テーマは「学校食堂の現状分析を行い、その改善案を企画し、食堂に対してプレゼンテーションする」というプロジェクト型の授業で、4人のグループで授業を進めていきます。

(2) 授業の展開

① 課題の発見と明確化(1時間)

課題を提示し、最初に現状分析として「学校食堂のいいところ(強み)と課題(弱み)」の両方を付箋に書かせ、グループで話し合いながらKJ法で分析、発表させました。

② 解決案の検討(1時間)

より多くのアイデアが出るようブレインストーミングの手法で、付箋を使って話し合いをさせ、これをKJ法で整理させ発表させました。

③ 解決案の立案・情報収集(3時間)

拡散的思考で出されたアイデアを、実現可能性や優先順位などの基準で絞り、グループで採用する解決案を考えさせました。解決案を考えると、それに説得力を持たせるため、現地調査・取材・需要調査を行い、解決案のメリット・デメリットも考えさせました。

④ プレゼンテーションの実施(1時間)

ここでまとめた解決案のプレゼンテーションを、食堂責任者の前で行いました。前年度もよい提案については実際に採用してもらえるので、どのグループも本気で提案していました。

⑤ 評価(1時間)

プレゼンテーションの内容について、相互評価・

教員評価を行い、自分たちの発表を振り返り自己評価も行いました。

(3) 生徒の提案例

生徒が実際に食堂にプレゼンテーションした企画のいくつかを紹介しました。

① 温かいみそ汁やスープを販売する

「食堂を利用しない弁当持参者をどう巻き込むか？」という問題意識から、「弁当は冷たくなるから、温かいものを販売すれば売れる」と仮説を立て、セルフ方式のスープ販売を提案していました。

② 食堂新聞を作る

現状分析で「食堂に行ったことがない」生徒が予想以上に多かったことから、「食堂に関心を持ってもらえれば足を運ぶ人が増える」と仮説をたて、新聞委員会が食堂新聞を作ることを提案していました



図1.2 生徒のプレゼンテーションスライド

(4) 授業の評価

この授業について、評価は以下のようにして行いました。

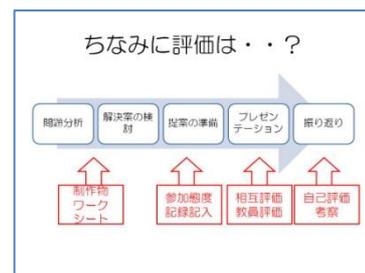


図3 評価の流れ

最終の成果物だけを見て評価するのではなく、ワークシートを使って、途中経過も評価していくことを工夫しています。また付箋を使って話し合いをさせることで、話し合いの状況も見ることができ、評価にも使えます。

3. こんなことを考えています

～情報科の授業で考えていること～

さて私は10年前に情報科の授業が始まった時、「情報科の授業をこんなふうになりたい！」といくつか考えたことがあります。(スライド)

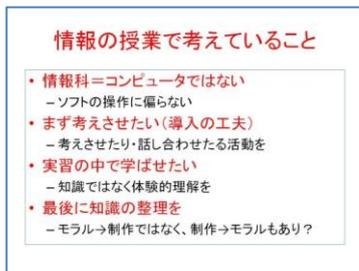


図4 講演スライド①

今まで教科書を見て授業を考えるときに、これらを常に意識してきました。それは4月からの新しい科目の授業を考える上でも同じです。

ではこの思いを授業でどう具体化していくか？

ここからは「教科書のこの部分、こんなふうに授業を考えてみては」と小さな工夫やアイデアを紹介していきます。

4. こんなふうに授業を考えてみては？

～授業アイデアの紹介～

(1) 第1章「情報とメディアの特徴」の授業

「社会と情報」教科書の最初のページ「情報の特徴」(p18～19)、皆さんなら、どんな授業を考えますか？早速ですが、グループワークで授業イメージを考えてみてください。

グループで授業を考えることって新鮮ではないですか？普段もこうやって授業について相談しながら授業を企画できたらおもしろいですね。

おそらく皆さんも考えついたことと思いますが、私は「情報」そのものを扱うときは、次のような授業をしています。

- ・ 実習・作業から始める
- ・ 話し合わせて考えさせる
- ・ 導入を工夫した素材を入れてみる

いきなり講義をするより、先に考えさせてみることで生徒も関心を持てるのではないのでしょうか。授業の「つかみ」＝導入は大切です。

(2) 1章2節「情報の表現と伝達」の授業

この単元の項目を並べていくと、以下のようになります。

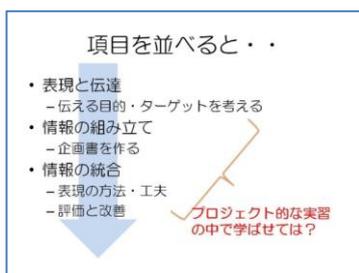


図5 講演スライド②

これらを教科書にそった講義形式で知識として教

えるのではなく、何かの制作実習の中で教えてはいかがでしょうか？

例えば、「メッセージを伝えるポスター作り」というプロジェクト型の実習の中で、教科書に載っている企画書の作り方や文字の表現、図や写真の効果、レイアウトの工夫などを話していけば、生徒は体験的に理解できます。



図7 指導書付属スライドより

(3) 2章2節「インターネット上のコミュニケーション」の授業

ここではインターネット上のコミュニケーションの特性を整理していく内容です。ここも知識として講義するよりも、生徒は実際によく使っているわけですから、作業や話し合いで考えさせたり、調べさせることから始めてはいかがでしょうか？

ついでに注意点・課題も考えさせたり、調べさせたりすれば、コミュニケーションの特性だけでなく、情報モラルの授業へとつなげることもできますね。

①生徒発表「分析：ブログ・SNSの利点・注意点」	
いいところ・長所	注意するところ・課題
・個人が情報発信しやすい	・死なずとも被害にあうかも
・コミュニケーションが豊かになる(交流)	・個人情報が知られやすい
・情報の収集がしやすい	・ワザの情報は多い
・同じ趣味を持った人とつながりやすい	・誰に売られているかわからない
・情報交換が楽しめる(双方向性)	・人間関係が悪くなることもある
・いつでもどこでも発信できる	・写真付きだと場所が特定される
・連絡が取りやすい	・犯罪に巻き込まれる
・交流が楽しい	・登録するときの手間
・もたれが増える	・参加する人が限られている
・簡単に更新・書き込みができる	・知らない人からの連絡の可能性も
・自分が思ったことをすぐ書き込める	・依存・疲労の危険性
	・なりすましの問題
	・他人を傷つけてしまうかもしれない
・簡単(いつでも書き込める・更新が楽)	・うそ情報、正しさが分からない
・コミュニケーション(同じ趣味)	・悪口・中傷
・誰でも発信できる	・依存症になりがち
・情報交換できる(双方向)	・著作権の侵害
・SNSは友人のみに情報をできる	・個人情報が漏れる
・いろいろな情報を得ることができる	・批判される危険性・トラブル
・人脈形成に便利	・知らない人知り合う危険性
・情報交流	・誰に見られているかわからない
・やりとりがスピーディー	・知らない人からの申請
・友人とのやり取りが楽しい(様子・レス)	

図6 講演スライド③「話し合い結果」

上のスライドは授業実践した時の話し合い結果ですが、ここにあげられたことをもとに、いくらでも授業を広げられますよね。

5. 今日のまとめ

以上、最初書いた「情報の授業で考えていること」をふまえた授業実践・アイデアを紹介してきました。みなさまのこれからの授業づくりに今日の話が参考になれば幸いです。

最後に実践のスライド・プリントは全て Web で公開しています。

「情報科の授業アイデア」 <http://www.okamon.jp>